

伝統芸能



神楽

GUJURA

波野 に伝わる伝統芸能『神楽』は、中江地区と横堀地区の二つの集落に保存・伝承されています。

この二つの神楽は、それぞれの歴史を持ち、集落内にある神社の春秋の祭りを主体に、近くの村里のお祭りなどで公演を行う郷土民俗芸能として継承されてきたものです。

二つの神楽

の起源は、豊後神楽ぶんごの系統と云われており、大分県から伝わったものとされています。

奈良時代に書かれた「古事記」と「日本書紀」に出てくる「天あまの岩戸」の神話を中心に劇化されたものが始まりで、江戸時代ごろ特に豊後(主に現在のぶんご大分県)各地で盛んに舞われるようになり、その神楽が二つの地区に伝わったと考えられています。

中江地区には大分県豊後大野市旧清川村の御嶽流岩戸神楽おんだけが、横堀地区には同市旧朝地町の深山流岩戸神楽がそれぞれ伝承されています。

神楽とは

日本の神道の神事で、神に奉納するための歌舞です。舞い手がお面をつけて踊ることで、神様が乗り移り、五穀豊穡や家内安全などを祈願します。

みかぐら さとかぐら 御神楽と里神楽

神楽は、宮廷で行われる「御神楽」と神話がもとになり民間で行われる「里神楽」に分けられます。私たちが身近に見ている神楽は主に「里神楽」で、全国各地に膨大な数が存在します。

「里神楽」も、「巫女神楽」「出雲流神楽」「伊勢流神楽」「獅子神楽」に大別されます。熊本県の神楽のほとんどは出雲の佐陀大社の神楽が元となっている「出雲流神楽」の系統です。

波野の神楽は「里神楽」を中心に「御神楽」などの要素が織り交ざって構成されています。

熊本の神楽は5種類

1. 肥後神楽

県内に一番多く分布していて、その数は100カ所を越えています。2～6人で組を作り、弓矢や刀を持って舞います。

2. 豊後岩戸神楽

神話をテーマにした神楽で、33座で構成されています。竹を登る舞いを取り入れているのが特徴の一つです。中江岩戸神楽と横堀岩戸神楽、南小国町の吉原岩戸神楽はこの神楽に該当し、豊後(大分県)から伝わってきました。

3. 高千穂神楽

神話の里として知られる宮崎県高千穂に近いところに伝承されています。33座で構成されていますが、豊後系と演目名は共通しているものの、内容が違うものが多くなっています。村人が演じる里神楽の原型を伝えていて、豊後系に比べて派手さが少なく古風な神楽です。

4. 阿蘇古代神楽

阿蘇神社の神職だけが舞う神楽で、阿蘇神社の末社でも舞われている特殊な古代神楽です。

5. 球磨神楽

人吉球磨地方に伝わる神楽で、お面を付けずに舞います。独自の特色を持ち、極めて貴重とされています。

受け継がれし



平成2年 1月27日
28日にかけて、岩戸神楽の33演目すべてを舞い続ける「中江岩戸神楽33座完全復元県立劇場一昼夜公演」が行われました。
この公演の大成功を契機に、旧波野村では神楽を中心とした村おこしに取り組むことになり、以来一つの神楽保存会は、地元の祭りをはじめ、県内外の祭典などにおいて公演を行い、神楽の伝承活動を行っています。

神話

の時代、正義と平和を象徴する太陽の神 天照大神は、わがままな弟 素戔嗚命の乱暴ぶりに怒り耐えかね、天の岩戸に隠れてしまい、世の中は暗闇に包まれました。

困った八百万の神々は、天照大神に岩戸から出てきてもらうため、天安河原に集まって相談した末、素戔嗚命を追い払い、岩戸の前で宴会を開くことにします。



国選択無形民俗文化財・県重要無形民俗文化財

中江岩戸神楽



荻岳の麓にある中江地区。22戸からなるのこの集落では、約250年以上も前から神楽が伝承されています。

中江岩戸神楽は、御嶽神社（豊後大野市）に伝わる神楽に、伊勢神楽、出雲神楽、高千穂神楽の要素を加え、さらに宮中に伝わる御神楽や宮中雅楽、久米舞（儀式用の国風歌舞）などの衣装を取り入れ33座で構成されています。

地元で鎮座する荻神社の春秋の祭事で奉納される神楽として伝えられ、昭和35年には県の重要無形民俗文化財、昭和50年には国選択無形民俗文化財に指定されています。また、伝統文化の保存や次世代への継承に務める活動が評価され、文部科学省の地域文化功労者表彰や第15回公徳賞など数々の賞を受賞しています。

神楽は神様に捧げる神聖な歌舞です。現在、中江岩戸神楽保存会の楽員16名のうち中学生、高校生、高校卒の若手が6名おり、幼いころから神楽や神様に関することを教えてきました。今は、大人顔負けの動きで見事な舞を見せてくれます。また、神楽を舞う子どもは神様と一緒に生きているので苦難も乗り越えられ、悪い道に進む者は一人もいません。

中江神楽保存会には30代〜40代の会員が不在で後継者が不足しています。この子どもたちを神楽の指導者として育て、中江岩戸神楽を後世に伝えることが私の使命だと思っています。私自身も身体が動く限り現役で神楽を続けていきます。



中江岩戸神楽保存会
佐藤 義勝 会長

岩戸の前に祭壇を設け、芸達者な女神 天鈿女命アマノウズメが賑やかに舞い踊り、それを肴に神々は周りで宴会を始めました。騒ぎが気になった天照大神が岩戸を少しだけ開いて覗いたところを力の強い神タチカラミコ、手力雄命が岩戸を引き開け、世の中に再び光が戻りました。



岩戸神楽

は、「天の岩戸」の物語が主体となって構成されています。九州地方では、この「天の岩戸」の故事が神楽の起源で、地域により様々な形の神楽に派生したと考えられています。



中江地区と同じく神楽が伝承されている横堀地区。26戸からなるこの集落の神楽は、地区にある菅原神社と起源を同じくして発祥したものと伝えられ、今から195年前の文政6年に神楽を神社に奉納した記録が残されています。

横堀地区では昔から五穀豊穡・家内安全・武運長久ぶくろくちゆうきゆうを祈願し13座の演目が代々舞い継がれてきました。明治から大正時代にかけて盛んになり、戦後衰退した時期もありましたが、横堀地区の人々の熱意で横堀神楽団体として残してきたものを、横堀岩戸神楽保存会として昭和51年に再結成し、現在では各地の祭事やイベントなどに積極的に参加し、その伝統を守っています。

市指定民俗文化財

横堀岩戸神楽



以前の横堀岩戸神楽保存会は楽員を集落内の人に限定していました。神楽は最低12名必要です。後継者不足から10年ほど前に門戸を開き、集落外でも神楽に興味のある人を受け入れ始め、現在は19名で活動しています。

横堀では、心がワクワクして力が湧くような神楽を目指しています。観た人が元気になることで、地域の活力にもつながり、集落全体の絆も深まります。

神楽は、横堀地区の秋祭り以外にも「かんぼの宿阿蘇」で年間約15回の公演、地域の秋祭りやイベントなどで披露しています。勇壮活ゆうそうかつたつ々な横堀の神楽をぜひ見に来てください。



横堀岩戸神楽保存会
岩瀬 國興 会長

次世代を担う

波野小・中学生の神楽

波野の小中学校では、中江

として存在しています。

岩戸神楽保存会の指導のもと
神楽の練習が行われています。

それぞれの学校で練習した
神楽は中江岩戸神楽の定期公

「波野小学校子ども神楽部」
には全校生徒46名中12名「波
野中学校神楽クラブ」には、28
名中12名の子どもたちが加入
しており、神楽が身近なもの

演、老人ホームなどの福祉施
設、10月の神楽フェスティバ
ルや11月の子ども芸術祭など
で披露されています。



波野小学校子ども神楽部による神楽“五方礼始”

注目



波野中学校神楽クラブ
部長 清水 城斗さん
(波野中3年)

清水さんは、先に神楽を始めた
兄の公演を見て「かっこいい」と憧
れを抱き、小学2年生の頃に神楽
を始めました。小学4年生で主役
を舞い、中学2年生から大人に混
ざって中江岩戸神楽の定期公演に
出演しています。

神楽が大好きと言う清水さん。
神楽の後継者としてこれからの活
躍が期待されます。



波野中学校神楽クラブの練習風景

横堀岩戸神楽の若人

横堀岩戸神楽保存会では、

地域の縛りを無くし、神楽に
興味がある楽員を広く受け
入れています。ことしの6月
に市原邦明さん(33歳)、加藤
勝矢さん(31歳)、工藤勝大さ
ん(34歳)の3名が新しく加入
しました。いずれも横堀地区
外の出身者で、神楽の後継者
となるべく毎週水曜日に練習
に励んでいます。

市内では波野地区のみに伝
わる伝統芸能「神楽」。この貴
重な文化は新たな後継者の手
によって次の世代へと引き継
がれていきます。



左から市原さん、加藤さん
(工藤さんは取材当日不在でした)

注目



横堀岩戸神楽保存会
石川 友也さん
(39歳)

愛知県豊田市出身の石川さん
は、4年前に横堀地区に新規就農
者として移住してきました。

3年前に楽員の誘いで神楽保
存会に加入し、3ヵ月後のゴール
デンウィークの神楽公演でデ
ビュー。舞を覚えるまでは苦労し
たそうですが、今では仕事よりも
神楽が楽しみに。横堀地区を盛り
上げる貴重な担い手の一人です。



先輩の指導で神楽を練習。手足の動きが難しい。

神楽を愉しむ

神楽は、定期公演や地区の祭事などで観ることができます。10月6日(土)には、県内外の神楽団体が集結する神楽フェスティバルも開催されます。

神楽を知っている人も知らない人も、この機会に身近に触れることのできる伝統芸能の世界を愉しんでみてはいかがでしょうか。

中江岩戸神楽定期公演

毎回三十三座のうち四座ほどを舞い、波野小学校子ども神楽部も大人顔負けの神楽の舞を披露します。

- と き 4月～11月の毎月第1日曜日(10月を除く)
午後1時～午後4時
- ところ 中江神楽殿(波野大字中江・荻岳近く)
- 入場料 無料
- お問合せ 中江岩戸神楽保存会 ☎ 24-2219

横堀岩戸神楽公演

かんぼの宿阿蘇で宿泊者を対象として披露している神楽です。日帰り入浴をご利用の方も神楽をご覧くださいませ。

- と き 9月25日(火)、12月5日(水)、1月10日(木)、2月12日(火)、3月8日(金) 午後7時半～午後8時半
- ところ かんぼの宿阿蘇
- 入場料 日帰り入浴料として450円必要。宿泊者無料。
- お問合せ かんぼの宿阿蘇 ☎ 22-1122

奉納神楽

中江地区と横堀地区の祭りで神楽が奉納されます。いずれも無料でご覧いただけます。

【中江地区 荻神社春秋の例祭】

- と き 毎年4月20日・9月30日
- ところ 中江神楽殿
- お問合せ 中江岩戸神楽保存会
☎ 24-2219 (佐藤)

【横堀地区 秋祭り】

- と き 毎年11月3日
- ところ 郷土芸能伝承館
- お問合せ 横堀岩戸神楽保存会
☎ 24-2356 (岩瀬)

第29回神楽フェスティバル

- と き 10月6日(土) 午前11時～午後9時
- ところ 道の駅波野 神楽苑
- 入場料 700円
- お問合せ 神楽フェスティバル実行委員会(観光課内) ☎ 22-3174 波野支所 ☎ 24-2001

詳細は3ページにも記載しています。

